

## ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見

再意見提出者	株式会社中国放送
--------	----------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望	
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題	
(3) 関連する国内外の動向と課題	<p>平成22年6月14日提出の「ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見」に関して、次の補足を行います。</p> <p>①放送業務用の800MHz帯の映像FPUを2G帯以上の空き周波数帯へ移動させるとの意見があるようですが、800MHzはその特性から見通し外中継に大変優れており、市街地での建物などによる遮蔽物の多い所での伝送に威力を発揮します。駅伝やマラソン番組での中継は市街地を含め、広範囲に移動するため、伝送可能距離も長距離を確保することが必要となります。</p> <p>緊急の報道中継では、見通しの可否を判断する時間もない場合があり、その場合は800MHz帯映像FPUはその威力を発揮することになります。</p> <p>弊社では駅伝・マラソン中継だけでなく、情報番組の市街中継での移動カメラ、山間部での見通し外の中継現場とマイクロ中継点間の伝送などにも使用しております。</p> <p>2G以上の帯域は直進性が優れているため、見通しを確保することが必要となります。見通し外のため、2G帯以上での伝送が無理な場面でも800MHz帯では確実な伝送を行うことができます。800MHz帯FPUは我々地方の放送事業者にとっても必要不可欠な無線設備であり、視聴者に安定した放送を届けるためには、これに代わるシステムは他にありません。</p> <p>②ホワイトスペースへの移行の意見があるようですが、日本全国を移動範囲とするFPUは、駅伝・マラソン中継は5Wの出力で広範囲を移動するため、他の無線システム（共聴設備あるいはブースターなど）への飛び込みなどの影響が懸念されることと、ホワイトスペース内で共通の空き周波数</p>

	<p>を確保することは困難と思われます。 更に、新たな帯域でのシステムの開発は、時間とコストがかかり、短期間での移行は困難を生ずると考えます。</p> <p>③全国的に幅広く運用されている特定ラジオマイクは、800MHz帯FPUと周波数を共用しており、これまでその運営調整を行うことで、干渉による妨害を未然に防ぎ、周波数の有効利用を図っています。 この特定ラジオマイクについても、その移行先の検討や開発において、800MHz帯FPUと同じ困難が生じます。</p> <p>④デジタルラジオマイクも今年6月に免許交付され、その共用も開始しているところです。音質の良さと周波数の有効利用から今後利用者が増えてくると考えられます。</p> <p>⑤放送用周波数のチャンネル削減をすべきとの意見がありますが、我が国は国土の6割が山地という地形の特徴から多くの中継局が置局されています。しかもこれらの中継局は、お互い混信妨害を起こさないよう、綿密なチャンネルプランのもと、計画的に置局されています。 また、瀬戸内海地域は海を挟んで電波が飛び交い、デジタル放送への移行当初からチャンネルを見出すことも困難な状況で、アナログ放送に妨害を与えないよう暫定的に出力を制限したり、アンテナ指向性等を工夫しながら共存しております。 さらに、新たな難視や予想外のデジタル混信のため、リパック後も更なるチャンネルの使用が予測されます。 視聴者へ瞬断なく安定した放送を届けるためには、アナログ放送が終了したとしても、これ以上のチャンネル削減は甚だ困難と考えられます。</p> <p>以上のことから、周波数の割当てにおいては、携帯電話や無線LANなどのモバイル系だけでなく、放送業務用を含めた慎重な配慮を要望します。</p>
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	